



GH1308

取扱説明書

製品を御使用になる前に注意深くお読み頂き、十分理解して下さい。

株式会社オーレック

いつでも御覧になれるよう、大切に保管して下さい。



目次

1. 安全に作業するために	1
2. シンボルマーク・ラベルについて	3
3. 各部の名称	6
4. 仕様	7
5. 作業上の注意	8
6. パーツの組立と解体	12
7. 点検・整備	14
8. 整備設計表	22
9. 長期の保管	23
10. 故障したときは	23
11. その他のアクセサリー	25
12. 保証	25

はじめに

この度は本製品をお買い上げ頂き誠に有り難うございます。

信頼性の高い、なおかつ耐久性に優れたこの乗用芝刈機GH1308は、長期間使用して頂く為に特別に設計されたものです。

本製品を最良の状態に保ちより長く使用して頂く為に、この取扱説明書をよくお読み頂き、安全についての記載事項や整備・点検方法を十分に理解し作業にお役立て下さい。

優れた品質の商品を提供する為、常に製品の改良を試みております。その為お手元の製品と本書の内容に若干異なる場合があります。

技術に関する最新の情報は、弊社にご相談下さい。

本製品の機体番号は集草ボックスの近く、本体右側に貼付されています。ご用命の際には、この番号をお知らせ下さい。

1. 安全に作業する為に

本製品を使用する際には必ず次の指示に従って下さい。

- ・本説明書、あるいは通常の規則に従わなかった上での作業上の不備に関しては、当社は責任を負いませんのでご了承下さい。
- ・ご使用前に本体に貼付されている安全ラベルを必ずチェックし、よくお読み下さい。もし一つでもラベルが欠けていたら、すぐに販売店にお申し付け下さい。
- ・危険表示ラベル及び安全ラベルは絶対にはがさないで下さい。
- ・お使いになる前に、素早く機械を止められるよう操縦装置や作業上の指示を十分に理解しておいて下さい。
- ・機械や部品は常に最良の状態に保っておいて下さい。また欠陥のある部品を使ったり、安全装置を外しての作業は大変危険です。
- ・当社の了解なしに機械を改造しないで下さい。改造は大変危険で事故の原因となります。その際の事故については当社は責任を負いかねますのでご了承下さい。
- ・エンジンスピードの調整機は整備しないで下さい。エンジンスピードの出しすぎは人身事故につながる恐れがあります。
- ・取扱説明書を読んでいない方は、機械を使用しないで下さい。もし人に機械を貸すときは、その人にも本書を読んでいただき理解した上で使用してもらって下さい。
- ・10度以上の勾配での傾斜地作業は行わないで下さい。傾斜面での作業に関しては後に指示している事項をお読み下さい。
- ・土手、くぼみ、又は地盤の弱い場所等機械が横転する恐れのある場所で作業しないで下さい。
- ・使用者は作業地内の人、動物等に十分に注意して下さい。
- ・エンジン作動中は人や動物を近くに寄せないで下さい。
- ・作業員以外の人を乗せないで下さい。
- ・16歳以下の子供に機械を運転させないで下さい。無人でエンジンが作動していることのないよう、短時間でも機械から離れる時はキーを抜いて、駐車ブレーキを入れて下さい。
- ・本製品を使用する前にナイフの状態をよく点検して下さい。
- ・機械の下に何か物がある場合や十分な安全確認をしないまま始動させないで下さい。
- ・草を刈る前に石や木片、缶等の障害物を取り除いて下さい。
- ・作業員がケガをしないよう、低木は退かしておいて下さい。
- ・ナイフでは切れない、或いはナイフに損傷を与えるような障害物、例えばコンクリートの柱、木の切り株等は避けて下さい。
- ・ナイフに衝撃を与え異常があった場合には必ず交換して下さい。
- ・方向転換する時には、十分に注意して運転して下さい。
- ・走行している際には一度に両ペダルに足を乗せないで下さい。
- ・本製品は車両を引っ張る為に設計されたものではありません。
- ・絶対に手や足を刈取デッキに置かないで下さい。
- ・作業中は、石やその他の異物が飛び散ることもありますので他人に当たらないように十分気を付けて下さい。

- ・刈取りは日中の明るい時、或いは照明が十分に明るい所で作業して下さい。
- ・公道での運転は出来ません。
- ・ゆったりした服や短いズボンには作業に適しません。
- ・足全体を覆う頑丈な靴を着用して下さい。
- ・エンジン及び作動する部品を点検する際にはエンジンを切り、キーを外し、電気プラグを抜いて下さい。
- ・疲労時、体調の悪い時、飲酒後、薬を服用した後は運転をしないで下さい。
- ・草の上で使わない時、例えば草地から草地への移動時は刈取デッキを一番高い位置に上げておいて下さい。
- ・エンジンを作動させている間は絶対に燃料タンクに注油しないで下さい。注油する前の2分間はエンジンを冷やしておいて下さい。
- ・使用する直前に購入した燃料を使って下さい。古い燃料を使うとキャブレター内にゴムの沈殿物が発生したり、エンジンがかかりにくくなります。ご使用の1ヶ月前までに必要量をお求め下さい。燃料は専用の容器の中に保存して下さい。

注意：燃料は引火性の高いものです。

- ・燃料を補充する時は常にタンクを開け、タバコを吸わないで下さい。
- ・エンジンを作動する前に燃料を補充して下さい。
- ・エンジンが作動しているとき又熱いときは燃料キャップを取らないで下さい。
- ・燃料補充の際、タンクから溢れないようご注意下さい。注意したにもかかわらず、燃料が溢れた際には下記の点をご確認下さい。
 - a) 燃料で汚れた部品すべて念入りに清掃して下さい。
 - b) 溢れた燃料をすべて拭き取ったことを確認するまでは機械を始動させないで下さい。
- ・燃料が漏れた時はエンジンを作動させないで下さい。そして本体をその場所から遠ざけ燃料から排出される物質を燃やさないように十分注意して下さい。
- ・燃料タンク及びキャップは必ず元の正しい位置に戻して下さい。
- ・裸火やストーブ、種火のついた湯沸かし器または発火作用のある物体の近くでは絶対に燃料を保管したり注いだり使用したりしないで下さい。
- ・狭い場所でエンジンを始動させないで下さい。排気ガスは無臭の一酸化炭素を含んでおり、場合によっては死亡の可能性があります。
- ・異臭を感じたときはエンジンを始動させないで下さい。爆発の恐れがあります。
- ・マフラーのない状態でエンジンを動かさないで下さい。マフラーは定期的に点検し、必要があれば交換して下さい。
- ・マフラーやエンジン周辺は定期的に掃除して、草や他の可燃性物質が蓄積するのを防いで下さい。

以上の注意事項は安全に作業する為に極めて重要であります。完全なものではなくお客様自身の十分な理解と注意が必要です。乗用芝刈機に関する法的事項は、必ず守らなければなりません。

使用について

- ・エンジンスピードラベル
- ・エンジンスピードの表示



START : 始動時の位置 (チョーク)
 MAXI : エンジンはフルスピード

MINI : アイドリング状態

- ・エンジンの始動ラベル



: エンジン「切」・ パワースイッチ「切」
 : パワースイッチ「入」
 : エンジン始動

- ・駐車ブレーキラベル (f)

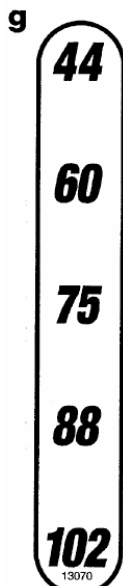
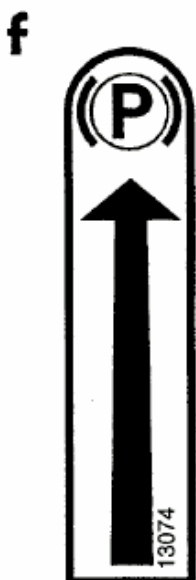
駐車ブレーキをかける時は、矢印の方向へブレーキレバーを動かして下さい。

- ・刈高さラベル (g)

刈る時の高さをmm単位で表示しています。この表示の刈高さは、あくまでも参考的なものです。
 (但し、硬く平らな地面から計って下さい。)

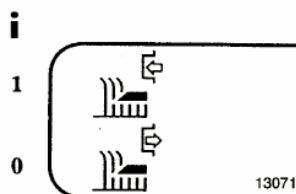
- ・グラスボックス排出ラベル (h)

矢印は、グラスボックスの草を排出するレバーの動く方向を示しています。



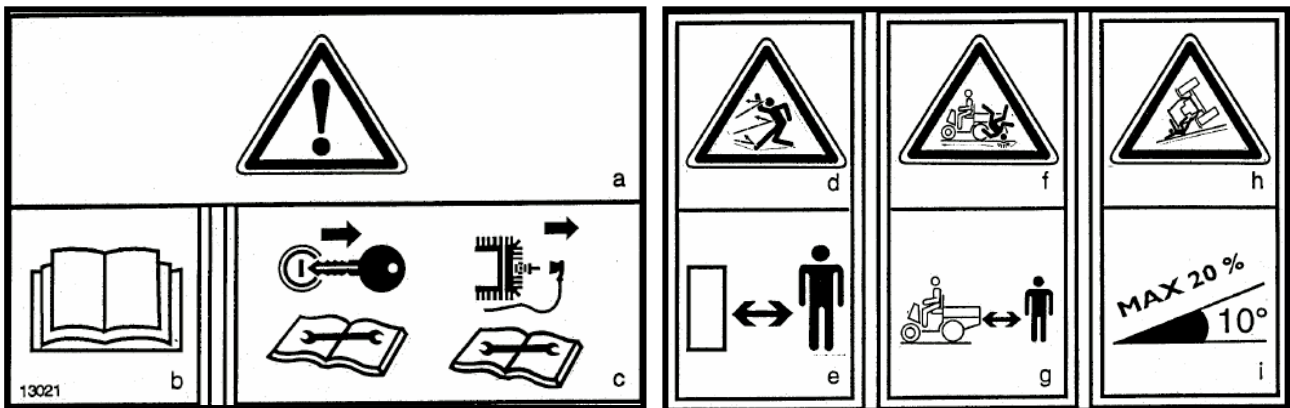
- ・ナイフの始動ラベル (i)

1 : ナイフスイッチ「入」
 0 : ナイフスイッチ「切」

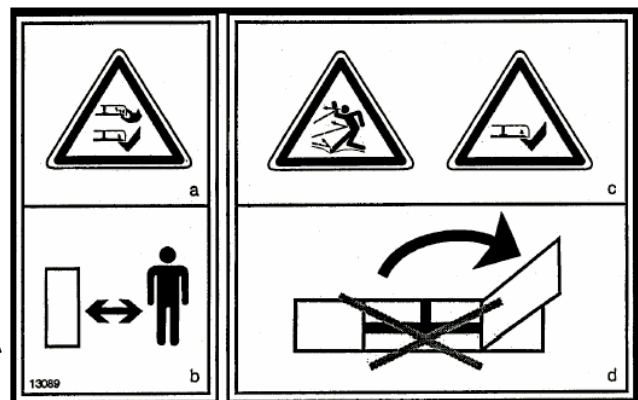


安全ラベル

- ・a = 注意！
- ・b = ご使用前に、取扱説明書にある安全と整備についての注意書きを読み、守ってください。
- ・c = エンジンを止め、スパークプラグを抜いてからキーを抜いてください。
- ・d = 飛散物の危険
- ・e = 危険地帯への第三者の侵入を避ける
- ・f = 人を乗せない
- ・g = 機械に第三者を近づけない
- ・h = 転倒の危険
- ・i = 20度以上の斜面では使用しない

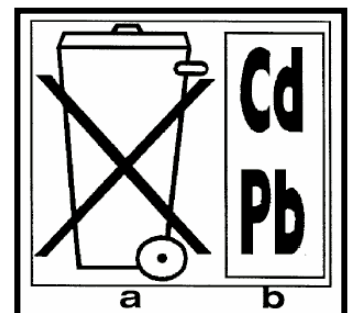


- ・a = 手や足を切断する危険
- ・b = 機械に第三者を近づけない
- ・c = 飛散物と足切断の危険
- ・d = フラップなしで機械を使用しない
エンジン作動中はフラップを開けない
使用前にフラップがロックされているか
後部のディフレクタが適切に取付けられているか



蓄電池マーク

- ・a = 販売店へ戻していただいた方がいい危険物を示しています。
- ・b = 「Cd Pb」とは、カドミウムや鉛を意味します。



3. 各部の名称

燃料キャップ

駐車ブレーキレバー

刈高レバー

ナイフスイッチ

グラスバッグ排出レバー

スロットルレバー

シートスライドレバー

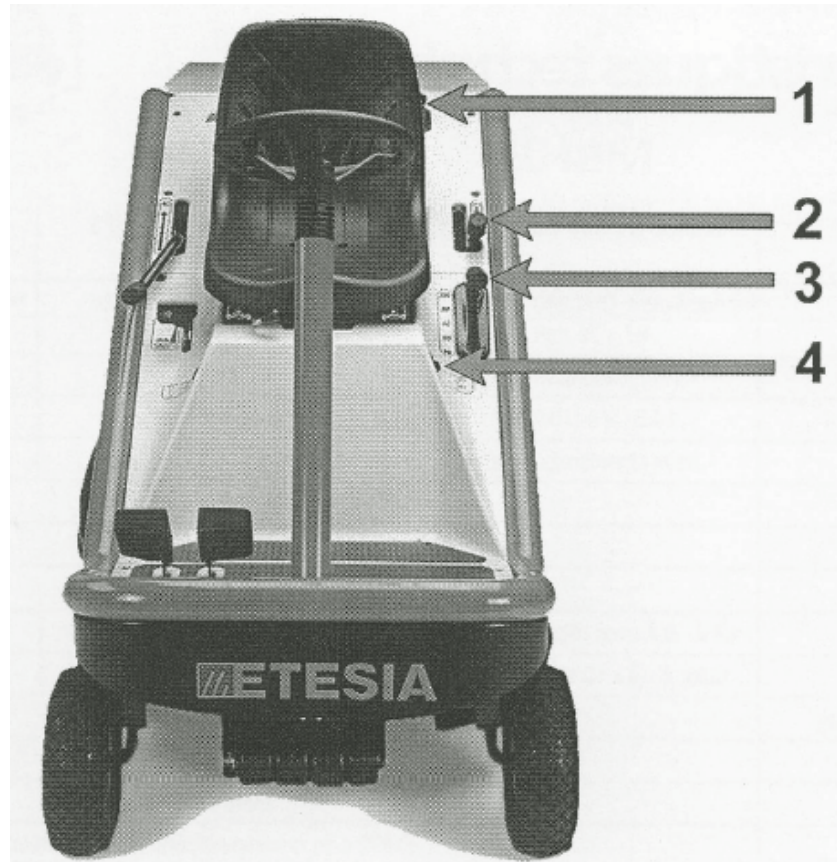
イグニッションキースイッチ

前進ペダル

後進ペダル

点検フラップ

ハブキャップ



4.仕様

型 式	GH1308 (GXV390搭載)		
全 長×全 幅×全 高 (mm)	1975×825×1110		
刈 幅	80 cm 一枚		
刈 高 (mm)	5 段階式 : 44 60 75 88 102		
刈取デッキ	鉄製		
ブレードクラッチ	電磁式 ブレードブレーキ搭載		
刈取デッキ 重 量	16 kg		
ミッション	HST方式 (無断変速)		
速 度 (km/h)	前進 : 0 ~ 9 後進 : 0 ~ 8		
パーキングブレーキ	HSTミッションに搭載		
タイヤサイズ	前輪 : 400 mm×4×4 後輪 : 16×6.5×8		
タイヤ 空 気 圧	前輪 : 1.2 bar 後輪 : 0.8 bar		
グラスボックスデザイン	管構造 紫外線防止付ポリアミド製生地使用		
グラスボックス 容 量	240 リットル		
エンジン			
型 式	B & S	FH430V	GXV390
排 気 量	465 cm ³	431 cm ³	389 cm ³
燃 料	無鉛ガソリン		
出力@3600U/min	13 HP(9.6kW)	15 HP(10.3kW)	13 HP(9.6kW)
冷 却	空気冷却		
スターター	12ボルト セルスターター		
発 電 装 置	12ボルト 9アンペア	12ボルト 13アンペア	12ボルト 10アンペア
点火プラグ	14 × 9.5 mm	14 × 19 mm (BPR5ES NGK)	
電 極 隙 間	0.75 mm		
ガソリンフィルター	ペーパーフィルター		
エアーフィルター	ポリウレタンフォームフィルター + ペーパーフィルター		
速度	2800 rpm		
オイル 容 量	1.42 リットル	1.3 リットル	1.1 リットル
ガソリタンク 容量	12 リットル		

5. 作業上の注意

配送前の検査は高技術で行われており、その後各販売店よりお手元に運ばれるでしょう。

安全システム

・本製品には4つの安全スイッチが取り付けられています。

- 1) 走行用ペダル
- 2) シート
- 3) グラスボックス
- 4) 駐車ブレーキ

・エンジンは以下の場合にのみ始動させて下さい。

- 1) 運転手が座っている、もしくは駐車ブレーキがつながっているとき
- 2) 走行用ペダルがニュートラルの位置にあるとき
- 3) ナイフスイッチが「切」のとき

・運転手がシートから離れ、駐車ブレーキが解除されるとエンジンは止まります。

・ナイフスイッチが「入」のとき、運転手がシートから離れるとエンジンは止まります。

・駐車ブレーキが「入」のとき、走行用ペダルを動かすとエンジンは止まります。

・ナイフはグラスボックスが正しい位置にセットされ、なおかつ運転手がシートに座っている時のみ作動させて下さい。

▲ 警告！ ・ナイフはグラスボックスから草を排出操作しているときは自動的に停止し、通常的位置に戻ると再び始動します。

・不備が起こった場合、使用するのをやめ、販売店にご相談下さい。

燃料について

・レギュラークラスもしくは、プレミアムクラスの加鉛ガソリンか無鉛ガソリンを使用して下さい。

・新しい無鉛ガソリンをお使いになることをお勧めします。

・使用量以上のガソリンを購入しないで下さい。

・缶入りのもので、1ヶ月以内に使い切れる量をお求めください。

- 1) 無鉛ガソリンの場合：1ヶ月
- 2) 加鉛ガソリンの場合：3ヶ月

・ガソリンとオイルを絶対に混ぜないで下さい。

▲ 警告！ ・添加物やガソリンとアルコールの混合物は使用しないで下さい。

・ガソリンは注意して取り扱って下さい。

・ガソリン補給の際には漏斗を使って下さい。また万一こぼれた場合は素早く拭き取って下さい。

・タンクがいっぱいになったら、フロートロッドの端を持ちながら漏斗を引き抜いてください。

・ガソリンは注ぎ過ぎないように気を付けて下さい。

・エンジンが作動しているときや熱くなっているときに給油しないで下さい。また給油時はタバコを吸わないで下さい。

・火のそばにガソリンを近づけないで下さい。

・燃料キャップは元の位置まで締めて下さい。

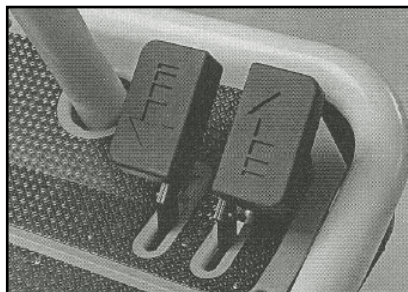
・給油の際は、必ず屋外で行なってください。

シートの調整について

- ・シートから降り、シートスライドレバーを持上げて下さい。
- ・シートを動かして最良の位置に調節して下さい。
- ・スライドレバーを離してシートが適切な場所に固定されているかを確認して下さい。

ペダルの操縦について

- ・本体の走行は右側にある二つのペダルによって調整されます。
- ・外側のペダルで前進、内側のペダルで後進します。各ペダルには、本体の走行方向を示す矢印がついています。(右写真)
- ・この2つのペダルで速度(0から最高速度まで)の調整ができます。
- ・ペダルから足を離すと徐々にブレーキがかけられ、やがて停止します。
- ・乾燥したアスファルト上で仮に時速9 km/hで動いている場合の停止距離は1.9m以下です。



エンジンの始動・停上のしかた

1) エンジンの始動

▲警告! 始動する前にもう一度、「安全に作業するために」の項をよく読んで下さい。

- ・燃料コックを開けます。
- ・シートに着席します。
- ・ナイフスイッチを「切」にします。
- ・駐車ブレーキを「入」にします。
- ・ペダルを踏まないようにして下さい。
- ・エンジンが冷えているときはスロットルレバーを「START」の位置に、熱くなっているときは「MAXI」の位置にして下さい。
- ・キーを始動の位置に回します。
- ・エンジンを始動したらキーを外し、スロットルレバーを「MAXI」と「MINI」の間に動かして下さい。
- ・ナイフスイッチは、エンジン始動後2～3分後にスイッチを入れて下さい。

▲警告! ・エンジンを改造しないでください。エンジンのスピードを変えないでください。

- ・作動部には手足を乗せないでください。
- ・排気ガスは有害です。締め切った場所でエンジンを作動させないで下さい。

- (注意)**
1. 1回で始動せず再始動をする際、フライホイールが止まっていることを必ず確認の上再始動して下さい。
 2. セルモーターは15秒以上連続して使用しないで下さい。
 3. 始動しようとする際、キャブレターの下からガソリンが漏れる場合は、オーバーチョークです。チョークを戻してスタータースイッチを回して下さい。

2) エンジンの停止

- ・ナイフスイッチを「切」にしてください。
- ・駐車ブレーキを「入」にしてください。
- ・スロットルレバーを「MINI」の位置にしてください。
- ・キースイッチを「0」の位置に回してエンジンを停止させてください。
- ・エンジンを停止させる時に、誤ってキースイッチを「始動」側へ回さないで下さい。
- ・燃料コックを閉めてください。

 **警告！** 機械を使わないときや機械から離れる時には、必ずキーを抜いておいてください。


ナイフの始動・停止のしかた

1) ナイフの始動

- ・スロットルレバーを「MAXI」の位置にしてください。
- ・シートの左側にあるナイフスイッチを「1」の位置に押します。
- ・ナイフを始動させる時はシートに座り、グラスボックスが正しい位置にセットされているかを確認して下さい。

2) ナイフの停止

- ・ナイフを停止するときはスイッチを「0」の位置に押します。

 **警告！** ・グラスボックスを排出する時ナイフは自動停止し、元の位置に戻ると再び始動します。
・運転手がシートを離れることによってエンジンが自動停止し、同様にナイフも停止します。

運転のしかた

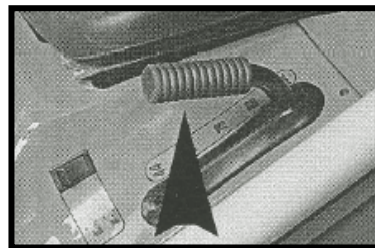
- ・バイパスレバーが「1」の作業位置にあるかを確認してください。
- ・グラスバッグを排出位置にするとバイパスレバーが確認できます。
- ・駐車ブレーキを解除して下さい。
- ・前進したいときは右側のペダルを、後進したいときは左側のペダルをゆっくりと踏んでください。
- ・芝の質、長さに応じてスピードを調整して下さい。
- ・ナイフの回転速度を遅くした場合、或いは負担のかけすぎによりナイフの回転速度がおちた場合は芝をきれいに刈ることが出来ません。
- ・芝を刈る際は、常にエンジンスピードを全開にして下さい。
- ・長い草を刈っているときや傾斜面で刈っている時にエンジンスピードがおちる場合は、ペダルを強く踏むのではなく、速度をおとして下さい。ペダルはエンジンスピードを調整するものではなく、又アクセルとして使用することは出来ません。

 **警告！**

- ・機械を素早く止める為には、ペダルから足を離し、駐車ブレーキをかけて下さい。
- ・駐車ブレーキをかけている間にどちらかのペダルを踏むとエンジンを停止させる原因となります。

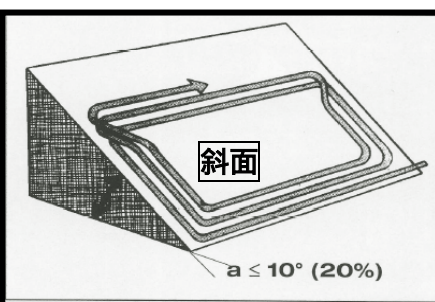
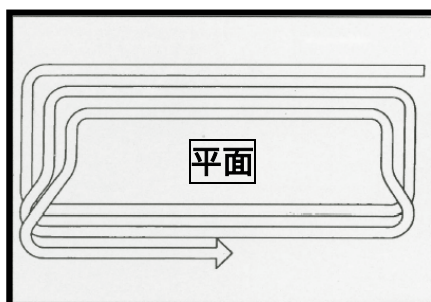
刈り高さの調節

- ・刈り高さを調節する為にはシートの左側にあるレバーを使います。
 - 1) 低くする為にはレバーを下げ、高くする為にはレバーを上げて下さい。
 - 2) 長い草や湿った草を刈るときは、少し高めに調節して下さい。
 - 3) 平面での作業、または定期的手入れしている芝を刈るときは、少し低めに調節して下さい。



芝刈作業・収草のしかた

- ・たくさんの芝を刈るときは、左下図のように運転するのが最適の方法です。
- ・この方法により急な方向転換や、無駄な動きを避けることができます。
- ・低い位置で刈高をセットして草を刈るときは、草をきちんと収集するためにスピードを遅くすることが大切です。
- ・グラスボックスがいっぱいになったら、警告音が鳴ります。すぐにナイフのスイッチを「切」にしてください。
- ・ナイフのスイッチを切れば警告音は鳴り止みますので、ボックスを空にして下さい。
- ・グラスボックスを空にするには：
 - 1) シートの右側にある排出レバーを作動させるとグラスボックスは空になります。
 - 2) 排出レバーを上げてグラスボックスを元の位置に戻す前に機体をゆっくりと前方に動かして下さい。
- ・草を刈った後、より効率的に収集するためには、あらかじめ草の収集場所を決め数箇所に山をつくるのが良いでしょう。
- ・グラスボックスを排出する作業は容易で簡単にできるので、完全にいっぱいにする必要はありません。たとえいっぱいでも、収集場所に近づいた時にボックスを空にすれば無駄な道のりを防げます。
- ・グラスボックスを排出ガイドとして使用する場合：（右下図）
 - 1) 刈取り後の収草が必要ない場合、グラスボックスの底板を外せば、排出ガイドとして使用出来ます。



傾斜面での作業のしかた

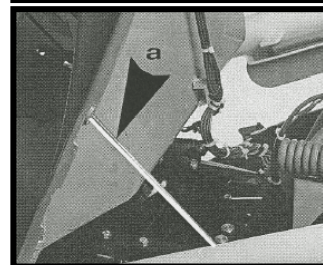
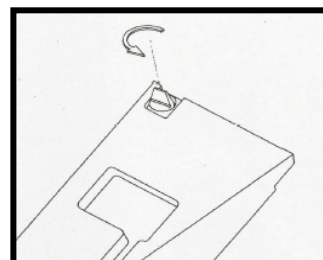
- ・傾斜面10度以下で作業するときには、中央上図のように運転するのが最適の方法です。
- ・斜面で作業するときには安全を確認し次の事項に従って下さい。
 - 1) 急停止はやめて下さい。
 - 2) 機械をコントロールできるようにゆっくりしたスピードで運転して下さい。
 - 3) 上り・下りいずれかの斜面上で停止するとき、又は始動するときには駐車ブレーキを離し、ペダルを使ってすぐに前方へ動かして下さい。
 - 4) 斜面でUターンするときは特に気を付けて下さい。方向転換に備え、動きがコントロールできるようにスピードを落として下さい。
 - 5) 停止したらすぐに駐車ブレーキを入れて下さい。

6. パーツの組立と解体

エンジン

・フロントカバーを前方へ開けるとエンジンを見ることができます。

- 1) シートはずします。
- 2) グラスボックスを排出状態にします。
- 3) スロットルレバーを「MINI」の位置にします。
- 4) ナイフの刈り高さを最高の位置にします。
- 5) 左右2つのネジを1/4回転して緩めます。(右上図)
- 6) カバーを前方に傾け、上にあげて下さい。
- 7) ロッドを使ってカバーを開けた状態にします。(右中図)



・必要であれば、シートスタンドも前方へ開けても構いません。

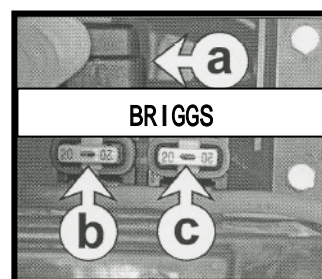
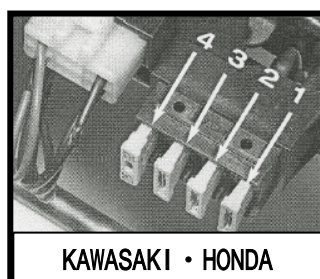
- 1) バッテリーの前にある2つの留め金を右図のように内側へつまみシートスタンドを前方へ傾け、開けて下さい。(右図)



ヒューズボックス

・ヒューズボックスは、フロントカバーの下側にあるバッテリーの後方、右側にあります。ボックスには保護用カバーの下に20アンペアのヒューズが4つ含まれています。(下図)

- ヒューズ1・c: 充電システム用ヒューズ
ヒューズ2・b: 一般保護用ヒューズ
ヒューズ3・4: スペアヒューズ



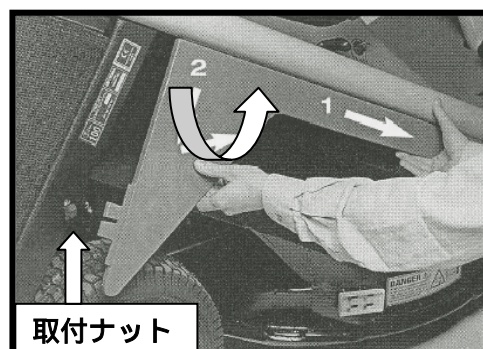
HSTミッション

・左の樹脂カバーを外すとHSTミッションを見ることができます。

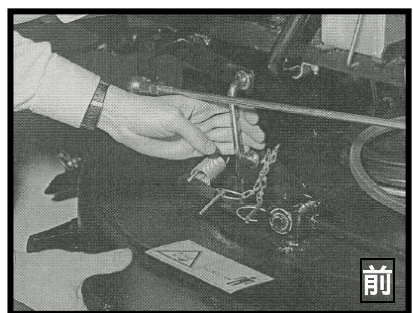
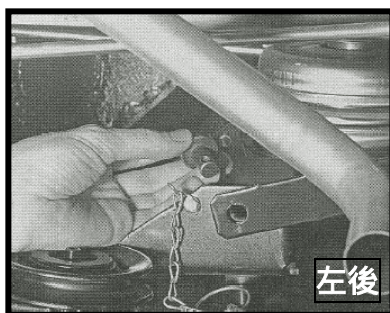
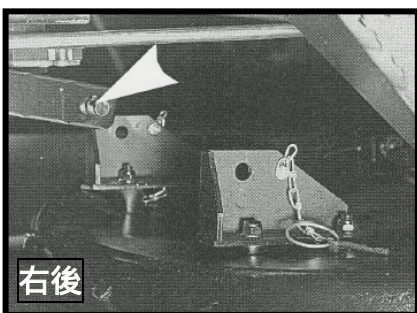
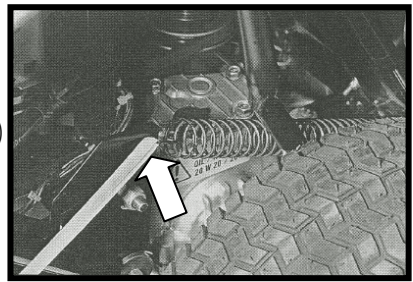
刈取り部の取り外し方

・エンジンスイッチを切り、点火キーを外します。プラグコードをスパークプラグより外して下さい。刈取り部を外す前に保護用手袋を着用して下さい。

- 1) 駐車ブレーキを入れて下さい。
- 2) 左右の樹脂カバーを外します。
 - ・左右カバーの取付けナットを緩めます。(外す必要なし)
 - ・カバーを前方へスライドさせボルト固定部位を解除します。
 - ・カバーを手元へ回転させて取り外します。



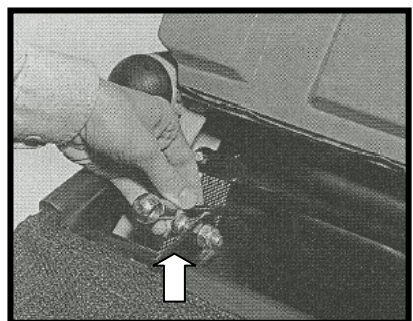
- 3) ボルトを緩めナイフテンションのベルト押さえを取り外します。
- 4) ナイフベルトをテンショナー、刈取り部の順で取り外します。
- 5) 紐などを使って機械左後にある刈り高さ調節バネを外します。(右図)
 - ・ナイフの刈り高さを最高位置にして取り外します。
- 6) 取り外し後、刈り高さを最低位置にしてください。
- 7) 刈取り部を前後4箇所固定しているピンを取り外します。
 - はじめに前、次に後ろの順で取り外します。
- 8) 刈り高さを最高部位にし、刈取り部を前・横にスライドしながら本機より取り外して下さい。
- 9) 元に戻すときは今までの手順を逆から行って下さい。



ガラスボックスの取り外し方

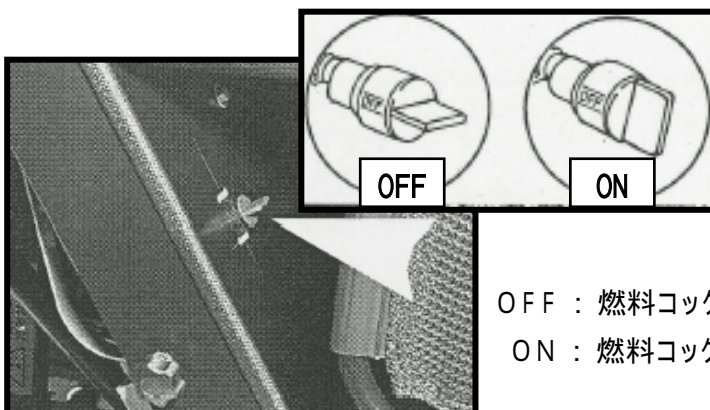
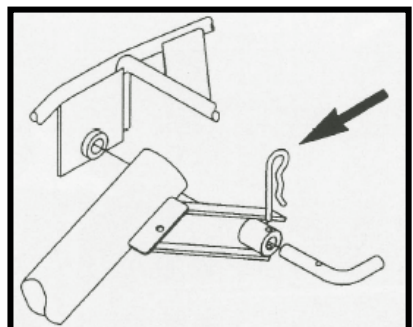
- 1) ガラスボックスの上部カバーを起こして、ロッドを取り外します。
- 2) ガラスボックス左右のRピン、連結軸の順で取り外して下さい。
 - ・ボックスを外してRピン、連結軸、ロッドの付け忘れがないようにして下さい。

警告! ・ガラスボックスなしでの作業は絶対にしないで下さい。
 ・ガラスボックスを外すのは掃除の時のみ行って下さい。

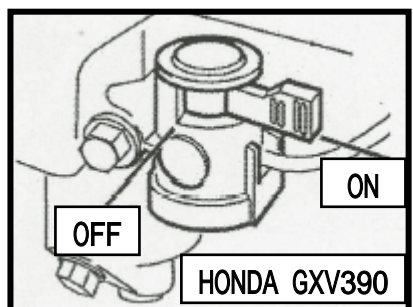


燃料コック

- ・左側の樹脂カバーを取り外します。(HONDA GXV390のみ)
- ・ガラスボックスの上部カバーを起こすと、燃料コックが見えます。
- ・ホンダエンジンにはキャブレターにもう一つコックが付いているのでそのコックを開けることを忘れないでください。



OFF : 燃料コック閉
 ON : 燃料コック開



7. 点検・整備

エンジン

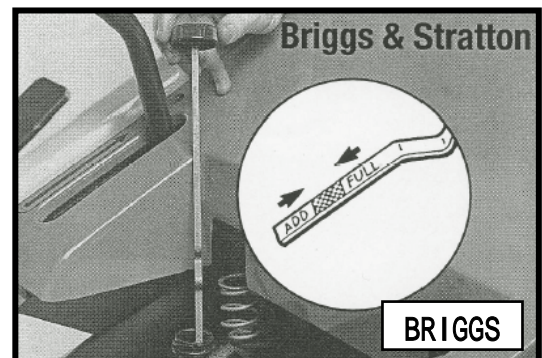
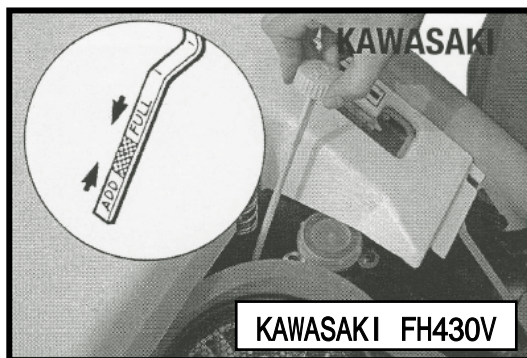
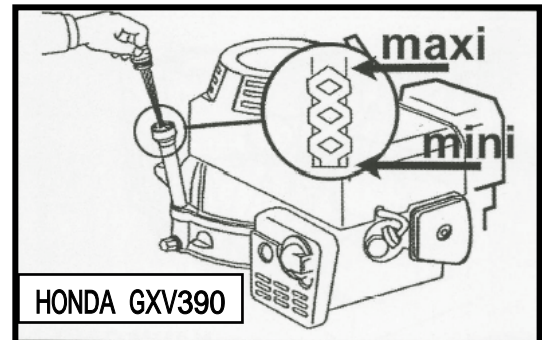
1) オイル量の点検方法

- ・本体を平な場所に置きます。
- ・シートを外してフロントカバーとシートサポートを前方へ開けます。
- ・注油口の周りをきれいに拭いて泥がオイルタンクの中に入るのを防いで下さい。
- ・計量棒を取り外します。きれいな布で計量棒を拭き、フィルター管に戻して下さい。

BRIGGSの場合 : 計量プラグを締めた状態でオイル量をゲージにて確認して下さい。

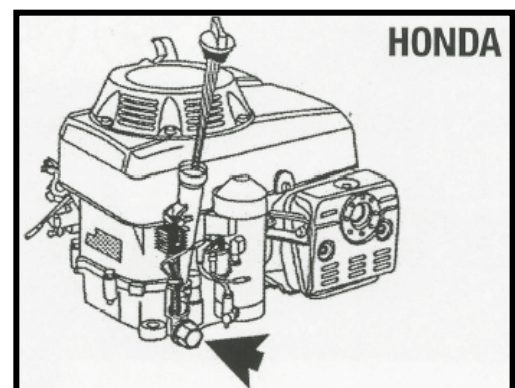
KAWASAKI・HONDAの場合 : 計量プラグを回さずそのままオイル量をゲージにて確認して下さい。

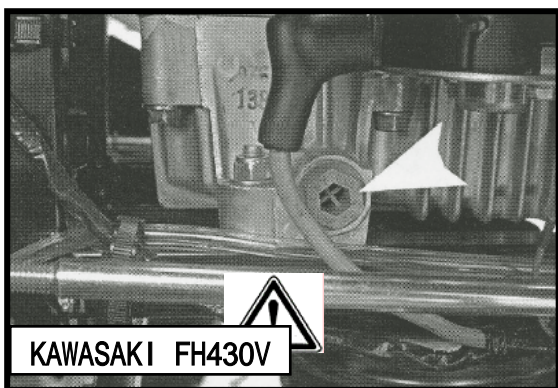
- ・オイルの量は常にADDからFULLの間を保ってください。
- ・足りないときは粘性のオイルSAE30か10W40をお使い下さい。
- ・FULLの印以上にオイルを注がないで下さい。
(オイル量については、仕様書をご確認ください)



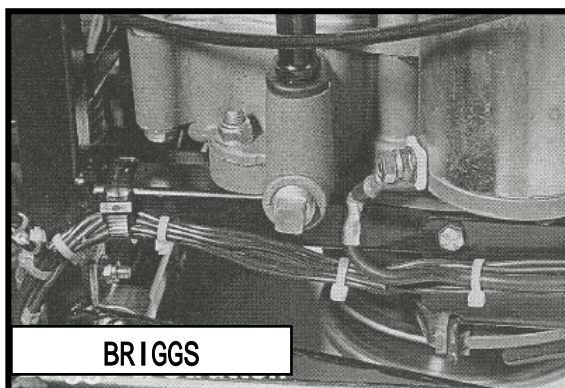
2) エンジンオイルの排出

- ・はじめてお使いになったときは10時間後、その後は50時間後おきに交換しなければなりません。
- ・エンジンを始動させてオイルを温めて下さい。
- ・本体を平な場所に置きます。・エンジンスイッチを切り、点火キーを外します。
- ・刈取り部を取り外します。(6. パーツの組立と解体の 参照)
- ・ドレインプラグを抜き使用済オイルを容器の中に排出します。
- ・ドレインプラグをきれいにし元の位置に戻します。
- ・注油口の周りをきれいに拭いて泥がエンジンの中に入るのを防いで下さい。
- ・計量棒を外し、粘性の新しいオイルSAE30かSAE10W40をゆっくりと加えて下さい。
- ・計量棒を使ってオイルの量を確認して下さい。
- ・オイルの量はFULLの印を越えないようにして下さい。





KAWASAKI FH430V

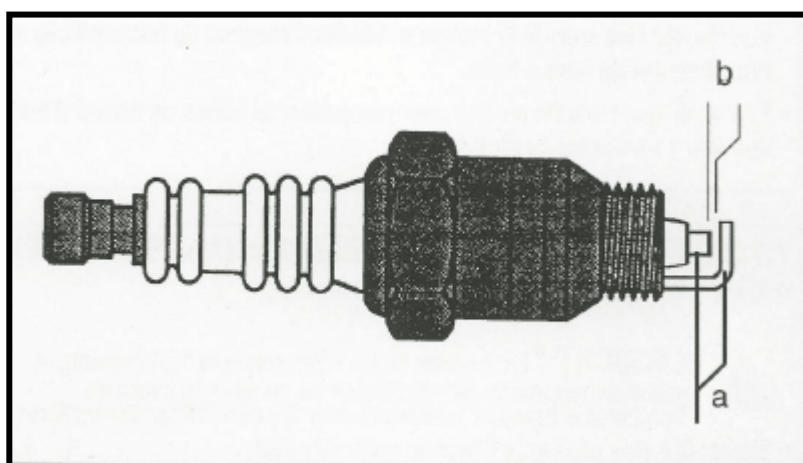


BRIGGS

- 警告!** ・熱したオイルを排出するときは細心の注意を払って下さい。
 ・マフラー、シリンダー、冷却フィンに火傷をする恐れがありますので絶対に触らないで下さい。
 ・使用済オイルは、許可された場所で処理して下さい。

3) スパークプラグ

- 警告!** ・エンジンが完全に冷めるまでは絶対にスパークプラグを交換しないで下さい。
 ・プラグは100時間使用ごとに掃除、あるいは交換して下さい。
 * プラグコードを外してプラグを取り外します。
 * 電極部分aにカーボンが付着していたらワイヤーブラシを使って取り除いて下さい。
 * 磁器部分が割れているときや電極部分が極端に消耗している場合には、交換して下さい。
 * 隙間ゲージを使って電極隙間(b)が0.65mmから0.75mmであるかを点検して下さい。
 その際、外側のつまみだけを使って隙間を調整して下さい。
 * プラグを元の位置に戻し、20Nmのトルクで固く締めます。
 * プラグコードをつけます。



4) エアフィルター

- ・フィンガーナット(a)を緩め、カバーを外します。(BRIGGS・HONDA)
- ・ノブナット(b)を緩め、注意してフィルターエレメントを外します。(BRIGGS)
- ・キャブレターの中に土や埃が入らないように気を付けながら、少しオイルのしみた布でフィルターベースをきれいに拭いて下さい。
- ・エレメントの掃除方法

フォームエレメント(c) :

- *ペーパーエレメント(d)からフォームエレメントを外します。
- *ぬるめの石鹼水で洗って下さい。
- *過剰の湿気、乾燥を除くために、清潔で乾いた布で拭いて下さい。
- *エンジンオイルに浸し、絞って余分なオイルを振り落として下さい。

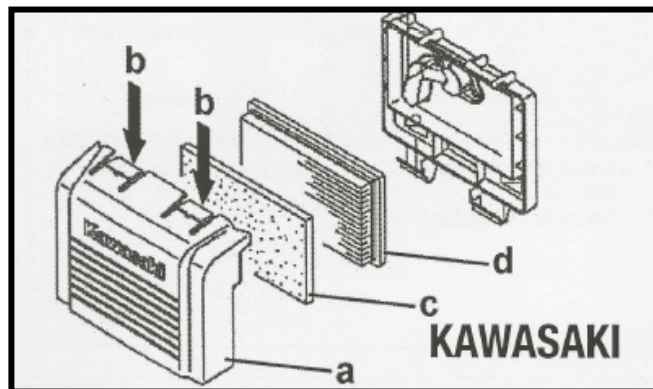
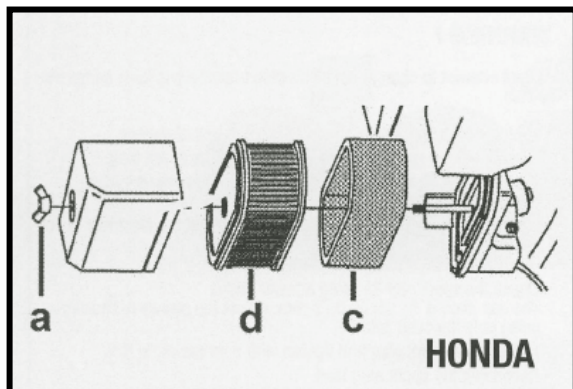
ペーパーエレメント(d) :

- *平面上でエレメントを軽くたたいて埃を取って下さい。
- エレメントがひどく汚れている場合は取り替えて下さい。エレメントは100時間おき、もしくは少なくとも1年に1回は交換して下さい。

- ・ペーパーエレメントとフォームエレメントを取り替えた後、ノブナット(b)を締めます。
- カバーを元に戻し、フィンガーナット(a)を固く締めます。

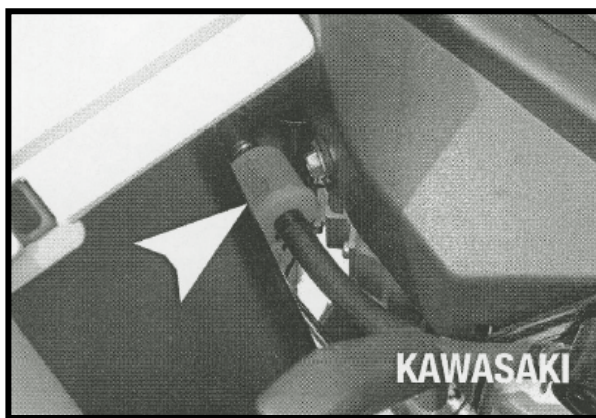
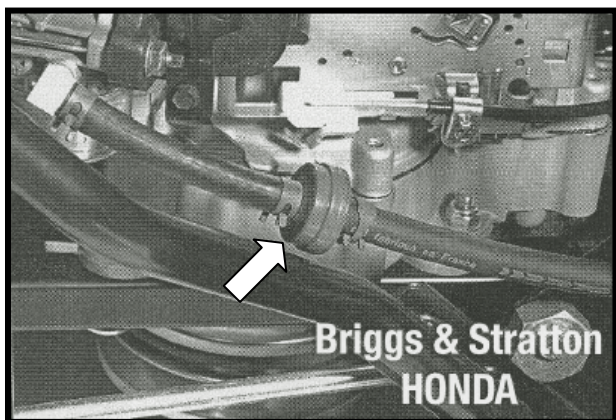
⚠警告! ペーパーエレメントを掃除する際に溶媒やガソリンを使用しないで下さい。また、オイルに浸さないで下さい。

- ・エレメントを掃除する、或いは乾燥させるときに圧縮空気では行わないで下さい。エレメントが損傷します。埃の多い環境での使用は頻りに掃除、交換するようにして下さい。



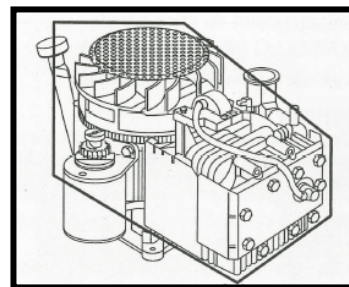
5) ガソリンフィルター

- ・エンジンの力がおちた場合やガソリンフィルターの目つまりにより点火しない場合はフィルターを交換しなければなりません。
- ・300時間使用ごと、または1年に1回交換することをお勧めします。



6) エンジン冷却系

- ・本製品を使う前にいつもエンジン回転グリルが草やゴミでふさがれていないかを確認して下さい。必要があれば取り除いて下さい。
- ・定期的にグリルの周りや冷却フィンを掃除して下さい。
- ・1年に1回、もしくは100時間使用ごとに冷却フィンを外しエンジンがオーバーヒートしたり空転したり、他のダメージを受けたりしないように図で示された範囲を掃除して下さい。必要があれば度々掃除をして下さい。



⚠ 警告！ ・マフラーの周りは定期的に掃除して、草や埃、燃えやすいゴミを取り除いて下さい。もし、エンジンの修理に適切な道具を備えていないときや相応の技術がないときは販売店へ連絡して下さい。

ミッション

- ・ミッションの整備作業するときは常にエンジンスイッチを切り、点火キーを外して下さい。

1) HSTトランスミッション

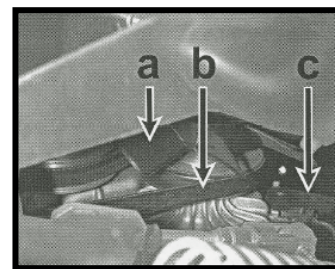
- ・オイルは粘性のSAE20W20かSAE20Wをお勧めします。
- ・オイルの量を確認して下さい。
 - * 本体を平面上に置きます。
 - * ボックスの中に土が入らないように注油口をきれいに拭いておいて下さい。
 - * オイルの量はオイルタンクの「MAXI」と「MINI」の間にして下さい。
 - * オイルの量が少ない場合は油圧回路からオイルが漏れていないかを販売店に見てもらって下さい。



⚠ 警告！ ・オイルは、初回は50時間後に、その後は200時間ごとに交換しましょう。
・本製品を使用する前には必ずHSTトランスミッションの冷却フィンに損傷がないか、又ファンが調子良く動いているかどうか点検して下さい。

2)ドライブベルト

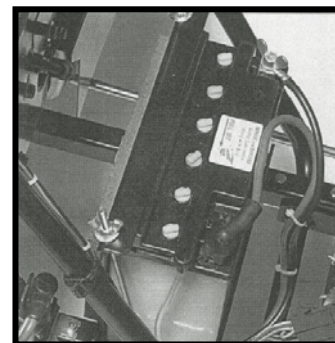
- ・ベルト(b)はHSTトランスミッションとエンジンをつなげています。
- ・10時間ごとにベルトの状態を点検して下さい。
ベルトは常にピンと張った状態にしておいて下さい。緩んでいるときは直して下さい。



バッテリー

1)12Vバッテリー

- ・12Vバッテリーはフロントカバーの下にあります。
- ・このバッテリーはほとんど整備の必要はありません。
- ・電解液の量は50時間ごとにチェックして下さい。また量は常に上の印(MAX)と下の印(MIN)の間になるようにして下さい。電池の中の電解液量はバッテリーを外さないで、フロントカバーを開けて点検するようにして下さい。
- ・充電されたバッテリーの中の電解液量が「MINIMUM」の印に近づいてきたら、蒸留水を「MAXIMUM」のところまで加えて下さい。決して、バッテリーからこぼれるほど注いだり、酸を加えたりしないで下さい。
- ・バッテリーの電極がさびていないかを点検して下さい。
- ・必要があれば、電極をきれいに掃除し特別のバッテリー用グリースでコーティングして下さい。



- ⚠ 警告！** ・いかなる時においてもバッテリーのコードを外す場合は始めにマイナス極、次にプラス極を外して下さい。
・バッテリーに電解液を注ぎ過ぎた場合は、腐食防止のために、こぼれたところをよく濯いでさびを防いで下さい。

2)バッテリーの充電

- ⚠ 警告！** ・機械からバッテリーを取り外す時は、まずマイナス極から外し次にプラス極を外して下さい。
・電解液の量を確認し、足りない時は蒸留水を補充して下さい。
・充電器にバッテリーをつなぐとき：
*電 圧：12ボルト
*電 流：最大3アンペア
*時 間：(必要に応じて)12時間まで

- ⚠ 警告！** ・このバッテリーは充電中に爆発性のガスを放ちます。
・裸火を避け、喫煙しながらの作業はやめて下さい。
・バッテリーはよく換気された場所で充電して下さい。
・バッテリーには硫酸を含んでおります。皮膚にふれると重傷の恐れがあり大変危険です。
・バッテリーを取り扱う場合は十分な注意が必要です。
・皮膚や目に触れた場合はすぐに水でよく濯いで下さい。
・必要であれば医師に診てもらって下さい。
・バッテリーはお子様の手が届かないところにおいて下さい。

<バッテリーの廃棄>

バッテリーには大変危険な物質が含まれています。環境保全のため、廃棄しないでください。廃棄に関する法令に従ってください。販売店が無料でバッテリーを引き取り、廃棄します。危険物の廃棄や収集に特化する機関へお渡しください。

⚠警告！・放電中のバッテリーを後でもう一度充電することはできません。またその場合保証期間内であっても保証の対象にはなりません。

タイヤ

・タイヤの空気圧は次のように調整することをお勧めします。過剰に膨らませると逆に作業の効率が悪くなるでしょう。

前輪：1.2 bar 後輪：0.8 bar

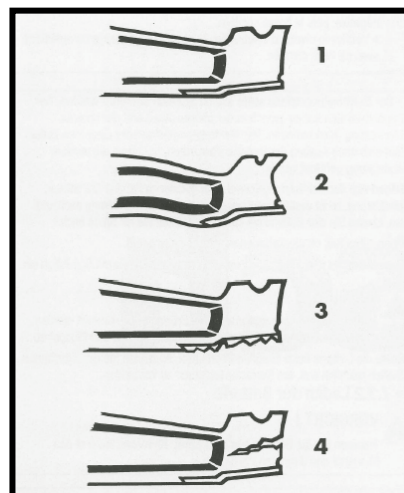
ナイフ(ブレード)

⚠警告！・カッティングの装置を点検・整備する前には必ずエンジンスイッチを切り、点火キーを抜いて下さい。プラグコードをスパークプラグより抜いて下さい。必ず保護用手袋を着用して下さい。

1)ナイフの点検

- ・本製品を使う前にナイフの状態をチェックして下さい。
- ・ナイフが損傷していたり曲がっている場合、正確に草が切れませんし収草もできません。ナイフの破損部分が刈取り部から分離し、飛び出したりして、大変危険です。
- ・すり減ったナイフ、損傷したナイフはすぐに交換して下さい。損傷していなくても切れが悪くなったら研磨して下さい。
- *ナイフのエッジにある制限マークをこえて研がないで下さい。
- *振動を防ぐためにバランスを整えて研いで下さい。
- *ナイフが正しく連結されているか点検し、きちんと動くことを確認して下さい。
- ・刈取り部の損傷がひどい場合は、刈取り装置全体を販売店に見てもらって下さい。

1 - 正常 2 - 曲がり 3 - 磨耗 4 - 割れ



2) ナイフの交換

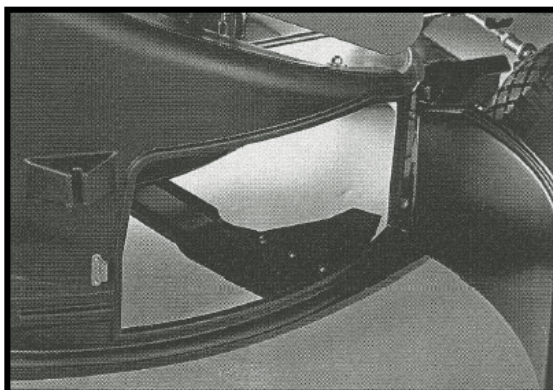
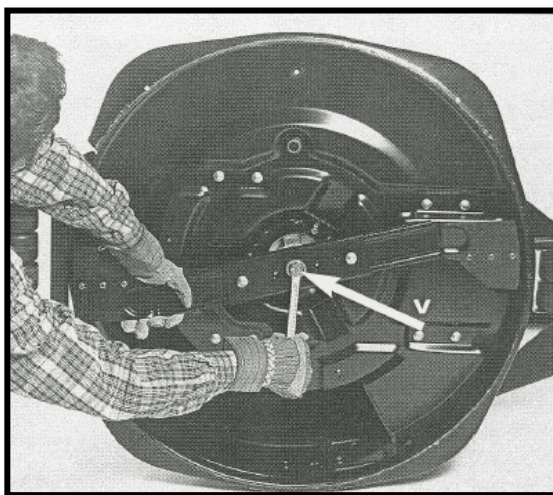
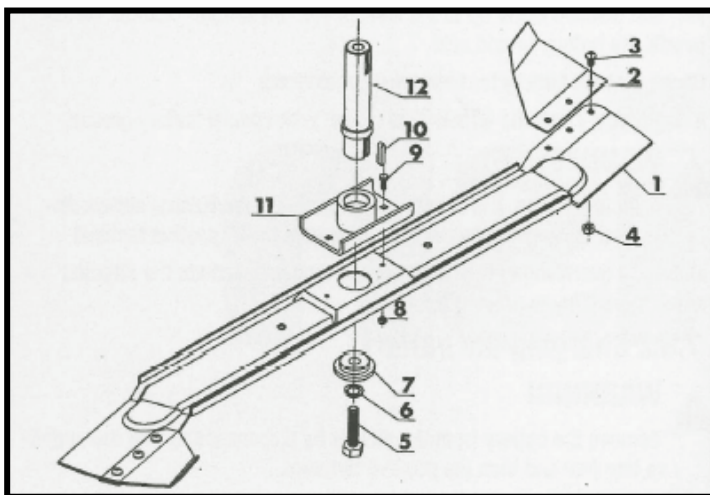
- ・ナイフは横排出口の点検フラップから確認します。
- ・最適な交換のしかたは刈取り装置全体を外すことです。
- ・真ん中のボルトを緩めてナイフと取付け部を外して下さい。

警告! 刈取り装置を交換する前には必ずエンジンスイッチを切り、点火キーを抜いて下さい。また手を保護する為に手袋を着用して下さい。

- ・ナイフと刈取りデッキの間に木製のブロックを使ってナイフをロックし中央の取付ボルトを外して下さい。(17mmスパナを使用)
- ・ナイフの取り外しを容易にするためにナイフ抜き取り器を使って下さい。
- ・ナイフを取付ける前にブレードブラケット(11)、キー(10)、シャーボルト(9)、ブレードワッシャー(7)の状態を点検して下さい。
- ・ブレードブラケットを取付ける前に、ナイフ軸(12)の先端にグリースを注して下さい。
- ・ナイフ取付ボルト(5)は固く締めて下さい。
- ・ナイフの取付け方向に間違いがないようにつけて下さい。

3) シャーボルトの交換

- ・ナイフとブレードブラケットを接続して下さい。作業中に衝撃が起こった場合、このシャーボルト(8.9)により刈取り装置全体を保護してくれます。
- ・5Nmのトルクでシャーボルトを締めて下さい。
- ・適切な道具、設備技術をお持ちでない場合は、販売店にご相談下さい。



各部の掃除のしかた

- ・高圧洗浄機の使用はお勧めできませんが、もし使用する場合にはキャブレターやエアフィルター、イグニッション、マフラー、バッテリーなどエンジン部品の電気系統に水を吹きかけないように気をつけて下さい。ベアリングや油圧装置には直接水をかけないで下さい。
- ・掃除の後はエンジンと全てのミッションを作動させて付着した水気を取り除くことをお勧めします。

1)刈取り部の掃除

- ・草を刈った後は必ず刈取り部を掃除して下さい。特にカバー内側をきれいにして下さい。
- ・刈取り部のホース連結カブラーに洗浄ホースをつけて掃除して下さい。
 - *デッキの左側にホースを接続する連結カブラーがあります。
 - *洗浄ホースを連結カブラーに接続して下さい。
 - *グラスボックスの底を外してください。
 - *水道栓を開きます。
 - *シートに座りエンジンとナイフを始動します。
 - *約3分後にカバー内側はきれいになります。
 - *ナイフのスイッチを切り、その後エンジンのスイッチを切ります。
 - *水を止めてホースを外します。
 - *もう一度ナイフのスイッチを数分間入れて付着した水を取って下さい。
- ・刈取り部を取り外してから掃除して下さい。
 - *刈取り部の取り外しについては(6.パーツの組立と解体の)を参考にして下さい。
 - *スクレイパーを使ってカバー内を掃除して下さい。

2)グラスボックスの掃除

- ・刈取り部と同様、空気の流れをよくするために作業後は必ず掃除してください。
- ・ホースなどを使って掃除してください。



警告！ 刈取り部やグラスボックスの適切な整備は草刈り、収草の作業を効率良くし、機械の寿命をより長くするでしょう。

8. 整備計画表

部位	使用前	10時間使用后	50時間毎	100時間毎 / 年1回
エンジンオイル	点検・量確認 補充		交換	
エアフィルター	点検・掃除			交換
エンジン冷却装置	草を取り除く			点検・掃除
スパークプラグ				掃除・調整 / 交換
バッテリー			電解液の量を 確認・補充	
操縦装置	正しく動くか確認			刈高調整・グラスボック スレバーピボットピンに注油。
燃料フィルターとホース	点検・確認			燃料フィルター交換 ホースの点検
ナイフ	ナイフ状態確認 (必要であれば) 研磨か交換			
ナイフ取付け部	ボルト緩み確認		ナイフ軸確認 注油	
電磁クラッチ				ブレーキの摩耗点検
ベルト類	点検・確認			
ミッション	ペダルが正しく 動くか確認。ミッ ション内のオイル 量確認。草や塵 が冷却装置に支 障を来たしてい ないか確認。		初めの50時間 作業後はオイル を抜く。ミッショ ンプリー取付 ネジが締まって いるか確認。	システムの点検と調 整。ペダルピンの注 油。200時間毎にオイ ルを抜く
駐車ブレーキ	作動確認			
ステアリング			ギヤ軸、リング への点検・注油	
電気系統	安全スイッチの 確認			
グラスボックス	点検・掃除			
タイヤ	空気圧確認			前・後輪軸への注油

9. 長期の保管 ～冬期の保管～

- ・機械をすみずみまで掃除して下さい。特に刈取り部は入念に掃除して下さい。可動部品には注油してください。
- ・燃料タンクから完全に燃料を排出し、残った燃料がなくなるまでエンジンを作動し続けてください。

▲警告!・燃料タンクを空にする際は、必ず屋外で行なってください。

- ・点火プラグを抜いて下さい。
 - ・点火プラグを取り外し、プラグを開いてシリンダーに少量(10cm³)の油をプラグ孔から注入して下さい。
 - ・点火キーを回し、エンジンを始動して下さい。
 - ・点火プラグを戻して圧縮をかけて下さい。
 - ・先にマイナス電極を外して、バッテリーを取り外して下さい。
 - ・バッテリーの充電については(7.点検・整備 - 2)を参照して下さい。
 - ・バッテリーは乾燥していて、風通しが良く、霜のおりない場所で保管して下さい。
 - ・バッテリーは2ヶ月毎に充電して下さい。
 - ・バッテリーや酸性物質はお子様の手が届かないところにおいて下さい。
- 下記の調整や点検が必要な時は、販売店にご相談して下さい。

*駐車ブレーキの調整

*走行システムの調整

*刈取り部の調整

*シートの調整

*エンジンの調整

*ベルトの交換

*本説明書に記載されていない全てのパーツの調整、および取り外し方法、修理方法について

10. 故障したときは

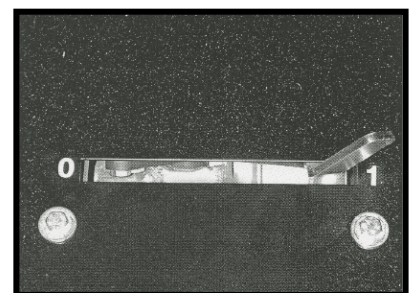
エンジンスイッチを切った状態で機械を移動させる方法(エンジンがかからない場合)

- ・エンジンスイッチを切った状態でもバイパス装置の切換えで機械を移動させることができます。
 - 1) グラスボックスを排出位置にするとバイパスレバーを確認することができます。
 - 2) レバーの位置を「1」から「0」にします。
 - 3) 駐車ブレーキを解除した状態で機械を移動させることができます。

バイパスレバー位置:

*「1」の位置 : 作動時の位置(通常作業)


*「0」の位置 : エンジンを切った状態での移動




▲警告!・バイパスレバーを「0」位置、解除したままエンジン始動させないでください。

故障時の機械の移動方法

- ・グラスボックスを外します。
- ・燃料コックを閉めます。

 **警告！**・機械を牽引する時は、ハンドルの支柱に引っかける専用のフックを使って下さい。
専用フックのみを使い、他の物を使用しないで下さい。

 **警告！**・バイパスレバー「0」位置は遅いスピードで(5km/hまで)短い距離を移動する目的にのみ使用して下さい。機械を移動した後は、レバーを作動時の位置に戻すことを忘れないようにして下さい。
・機械が遠く離れた場所で故障したときは適切な乗り物、トレーラーや移送用乗り物にのせて移動させて下さい。

タイヤの交換

- ・タイヤの交換は、堅く平らな地面で行って下さい。
- ・一時的な支えを使って本体を持ち上げた状態や、安全に対する心構えのない状態では本体上もしくは本体下で作業しないで下さい。
- ・タイヤ交換に適した道具を持っていない時や、十分な知識を持っていないときは販売店にご相談下さい。
- ・次の事柄を守ってタイヤを取り外して下さい。

*前輪

- 1) エンジンスイッチを切り、点火キーを抜いて下さい。
- 2) 駐車ブレーキを入れて下さい。
- 3) 輪止めを使ってタイヤを固定させて下さい。
- 4) 取り替えるタイヤの車軸の下にジャッキをおいて、タイヤが地面に全くふれなくなるまで持ち上げて下さい。
- 5) タイヤのハブキャップを取り外して下さい。
- 6) ドライバー(-)ネジを使ってサークリップを取り外して下さい。
- 7) 車軸からタイヤを取り外すことができます。
- 8) 取付けるときは今までの手順を逆から行って下さい。

*後輪

- 1) エンジンスイッチを切り、点火キーを抜いて下さい。
- 2) 駐車ブレーキを入れて下さい。
- 3) 輪止めを使ってタイヤを固定させて下さい。
- 4) 取り替えるタイヤの車軸の下にジャッキをおいて、タイヤが地面に全くふれなくなるまで持ち上げて下さい。
- 5) タイヤのハブキャップを取り外して下さい。
- 6) ボルトを緩め、止め金具を緩めて下さい。

- 7) 車軸からタイヤを取り外すことができます。
- 8) 取付けるときは今までの手順を逆から行って下さい。

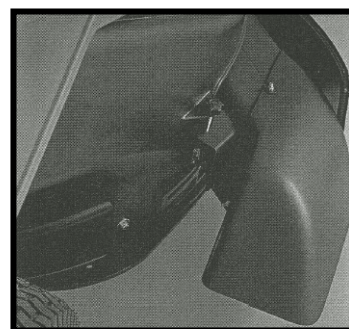
警告! ・車軸キーの付け忘れのないように注意して下さい。
・タイヤの空気圧を確認して下さい。
前輪 : 1.2bar 後輪 : 0.8bar

11. その他アクセサリー

MD80E サイドディフレクター (品番: 88-1081-00MD80)

- ・刈った草をサイドに吐き出します。背の高い草を刈る時や、収草の必要がない場合におすすめします。初めて刈る際には一番高い位置に合わせ低速で刈り、次からはお好みの高さで刈っていただくと仕上がりがよくなります。
- ・草は刈取り部の右側より排出されます。

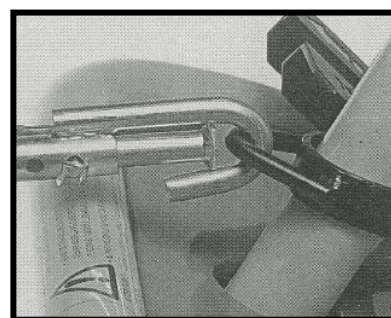
- 取付け方法:
- 1) エンジンスイッチを切り、点火キーを抜いて下さい。
 - 2) フラップのフックを解除して下さい。
 - 3) フラップを開け、ディフレクターを取付けて下さい。
 - 4) ノブナット(6)で固定して下さい。
 - 5) 取り外すときは、今までの手順を逆から行って下さい。



警告! ・ディフレクターを使わないときには、フラップがきちんと固定されているか確認して下さい。
・本体からガラスボックスを外して作業を行わないで下さい。

牽引フック

- ・故障した本体を牽引する際には、ステアリングコラムの底に装着してください。



12. 保証について

本製品の保証期間は、購入後一年、又は100使用時間の内どちらか短い方となっております。御使用中の事故・ご不審な点及びサービスに関するご用命は、お買い上げ頂いた販売店又は、当社営業所までお気軽に御相談下さい。その際、『商品型式と製造番号・搭載エンジンの型式名』を併せて御連絡下さい。

注意: 「取扱説明書」に記載してある適正な点検・整備を怠った場合、及び仕様をこえた使用・改造等によっての故障・事故については、保証の対象外となります。